
 会 議

国立大学図書館協議会総会 第17回

<とき：昭和45年9月30日 10月1日 ところ：高野山大学>

今年度は本館が当番館となって、76館160名余りが参加して開かれた。第1日は一般的な報告の他、4つの調査研究班「司書職制度」「図書館建築」「図書館機械化」「参考図書の基準」の報告、及び“新しい大学図書館像”特別委員会の報告があった。次いで3分科会に分れて予算・人事・奉仕その他について協議し、この結果は翌日あらためて全体会議にかけて審議を行なった。

第2日の研究集会では特別委員会で提起された“新しい大学図書館像”をテーマとし、(1)その理念、(2)学習機能の向上と相互協力、(3)機械化を中心に熱心な討議が行なわれた。総会を通じて大学図書館をとりまく厳しい環境、その打開への姿勢とともに、現時点の大学改革の波の中で図書館の果たすべき役割が大きく浮彫されることになった。

図書館商議会専門委員会 第8回 昭和45年9月16日

テーマ：京都大学附属図書館の機械化計画について

国立大学協会から「大学の研究・教育に対する図書館の在り方とその改革について」（第一次報告）が6月末発表されたが、この報告にも指摘されている図書館業務の機械化の問題を審議することになった。

機械化のうち、コンピューターの導入については、目下図書館事務部で検討をすすめているが、さしあたり、学術雑誌（欧文篇）総合目録の作成について具体化してみたい。しかし、将来図書館にコンピューターを設置するようになったときは、さらに、受入、発注業務から閲覧貸付業務、各種の統計作成業務にいたるまで幅広い適用が考慮されているが、その可能性について検討された。

 ニュース

マイクロフィッシュ撮影装置を本館に導入

文部省情報図書館課では、図書館近代化の一環として、国立10大学の文献複写センターにマイクロフィッシュ撮影装置を導入する計画を立て、さし当り初年度計画として、本年度に5大学（東京、京都、大阪、東北、九州）に対する設備費を大蔵省に要求し、予算化が認められた。

マイクロフィッシュは、従来のマイクロフィルムに替る合理的な資料管理の新しい手段としてすでに定評がある。この装置では、15×10.5 cm 四方のフィルムシートに60ページ（コマ）の撮影が可能で、撮影、現像、仕上り（ネガ）までの一連作業が僅か数分で完了できる性能をもっている。この装置の活用には、マイクロリーダーまたはリーダープリンターの装備が前提となり（本館では未装備）、その普及までにはある程度需要が限定されるにしても、今後装置の普及につれてその有用性が認められよう。なお、稼動までには、整備、仕様、料金設定等のため、当分の時日を必要とするが、始動の暁には本紙でも改めて紹介することにした。